

2025 年度

高知大学大学院 総合人間自然科学研究科

看護学専攻（修士課程）

〈第 1 次募集〉

（一般選抜・社会人特別選抜）入学者選抜試験

専門科目（母子看護学〔実践助産学〕） 問題冊子

この表紙をよく読んでください。ただし、試験開始の合図があるまではこの冊子を開いてはいけません。

以下の〈解答上の注意事項〉をよく理解した上で解答してください。

〈解答上の注意事項〉

1. 受験票を机の上に置いてください。
2. 試験開始の合図の後、まず解答冊子の受験番号欄に受験番号を記入してください。
3. 試験時間は 60 分（9：00～10：00）です。
4. 問題冊子は 1～4 ページです。解答冊子は 1～3 ページです。
5. 解答はすべて解答冊子の所定の欄に記入し、解答冊子を切り離さないよう注意してください。
6. 冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および汚れ等により解答に支障がある場合には、手を挙げて監督者に知らせてください。
7. 試験終了後、解答冊子のみを回収します。問題冊子は持ち帰ってください。
8. 試験終了時刻までに解答が終わっても途中退室はできません。

I 以下の文章を読み、正しいものに○、誤っているものに×を記入しなさい。(各1点、計10点)

1. 低出生体重児の届出は母子保健法で定められている。
2. 人工妊娠中絶の実施や届出は母体保護法で定められている。
3. 出生届は出生後7日以内に出生地の市町村長に届け出ることを戸籍法で定めている。
4. 合計特殊出生率とは16歳から48歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に産む子供の数の平均を示すものである。
5. リプロダクティブヘルスの基本的要素の一つである妊孕性を調整し抑制できるという内容に不妊治療が含まれる。
6. ルービンの母親役割獲得の過程に受容作業がある。
7. 健やか親子21(第二次)の重点課題に妊娠期からの児童虐待防止対策があげられている。
8. 母子健康包括支援センター(子育て世代包括支援センター)は妊産婦の相談対応は行うが家族からの相談には対応していない。
9. WHOは『母性とは現在子どもを産み育てているものと過去に子育てしたもの』と定義している。
10. 父子相互作用は母子の関係性が築かれるのに遅れて始まる。

II ()に該当するホルモンの名前を記入しなさい。(各2点、計10点)

1. ()は下垂体に働きかけ性腺刺激ホルモン(ゴナドトロピン)を分泌させる。
2. ()は卵巣で卵胞を发育させる。
3. ()は乳汁分泌を促す。
4. ()は子宮内膜を増殖させる。
5. ()は妊娠が成立すると尿中に排出されるため妊娠の診断に使用される。

III 図は双胎の膜性による分類を示したものである。A～Cに適切な語句を記入しなさい。
(各1点、計3点)

A () B () C ()

著作権の関係上公表しません

出典：母性看護の実践 MC メディカ 110p より

Ⅳ () に適切な語句を記入しなさい。同一の語句を複数回使用して差し支えない。

(各 3 点, 計 30 点)

胎盤から酸素を十分に含んだ血液は、(①)を通して胎児に流入すると 2 つの経路に分かれる。1 つは (②)を通り下大静脈から右心房にはいり、(③)を通して左心房から (④)を経て全身に送られる。下大静脈と上大静脈から右心房に入った血液の多くは (⑤)と大動脈をつなぐ (⑥)を経て、大動脈から下肢と内臓に送られる。その血流の一部は左右の (⑦)から分岐した (⑧)を経て胎盤に送られる。出生直後に胎児循環は停止し、肺呼吸の開始により (⑨)・(⑩)が閉鎖し、新生児循環へ移行する。

Ⅴ 次の文を読んで設問 1 ～ 4 に答えなさい。

A さん 33 歳 初産婦。

身長 157 cm 非妊時体重 53 kg、職業保育士、夫と二人暮らし。

妊娠 17 週の妊婦健診で尿糖が (++)、随時血糖値 128mg/dℓとなり 75g ブドウ糖負荷試験を受けた。

その結果、妊娠糖尿病と診断された。

妊娠 35 週 5 日、妊婦健診で、尿糖 (+) 尿蛋白 (-) 血圧 118/62mmHg、体重 65 kg、腹囲 97 cm、

子宮底 34 cm、GBS (B 群溶血性レンサ球菌) 検査 (+)、ヘモグロビン 11.2g/dℓ、ヘマトクリット 34%、

児の推定体重 2700g、NST (ノンストレステスト) を 40 分間実施した。

レオポルド触診にて児背を母体の左側に触れた。

設問 1 : ブドウ糖負荷試験における妊娠糖尿病の診断基準を答えなさい。(5 点)

設問 2 : GBS (B 群溶血性レンサ球菌) 検査陽性の A さんに投与される薬剤とその投与時期を答えなさい。(各 3 点, 計 6 点)

設問 3 : NST (ノンストレステスト) の実施時は仰臥位低血圧症候群に注意する必要がある。仰臥位低血圧症候群について説明しなさい。(5 点)

設問 4 : アセスメントについて正しいものをすべて選択しなさい。(3 点)

1. 胎児発育不全である。
2. 妊娠性貧血はない。
3. この時期の A さんに必要な摂取エネルギーは 2300kcal である。
4. この時期の A さんに必要な葉酸は 480 μg である。
5. A さんの体重増加量は過剰であり、これ以上体重増加しないよう指導する必要がある。
6. 第 2 胎向である。
7. 次回の妊婦健診は 2 週間後である。
8. 産前休暇の取得について指導する必要がある。

Ⅵ 次の文を読んで設問 1 ～ 6 に答えなさい。

在胎 39 週 2 日、9 月 15 日 5 : 40 に吸引分娩で出生した男児。

出生体重 3100g、身長 50.1 cm、出生直後のバイタルサインは体温 37.2 °C、呼吸数 78 回/分、心拍数 120 回/分、血糖値 42mg/dℓ、心雑音は聴取されなかった。①頭部に波動を触れる境界の明瞭な腫脹がみられた。排尿は出生直後に 1 回あり、岩のり状の便が 9 月 15 日 20 : 00 にみられた。出生当日に②ビタミン K₂のシロップを内服した。

9 月 18 日、児の体重は 2952g、③体重測定時に両上肢を開き、ものを抱えるような動きをした。バイタルサインは体温 37.0 °C、呼吸数 30 回/分、心拍数 118 回/分。全身に黄疸がみられ、傾眠傾向にあった。血清ビリルビン値 18.5mg/dℓ。コットで行えるベッドと一体型の光線療法器を用いて治療を行うことになった。

設問 1 : ①は何か答えなさい。(3 点)

設問 2 : ②ビタミン K₂のシロップを内服する目的を述べなさい。(4 点)

設問 3 : 出生当日のアセスメントで正しいものを全て選びなさい。(3 点)

1. 低血糖のため小児科医に報告する。
2. 一過性多呼吸がみられるため酸素投与の準備をする。
3. 呼吸窮迫症候群のため肺サーファクタントと人工呼吸器を準備する。
4. 排尿回数が少ないため、医師に報告する。
5. バイタルサインは正常である。
6. 20 : 00 の排便は胎便である。

設問 4 : 生後 3 日目の体重減少率を計算しなさい (小数第 1 位まで)。(3 点)

設問 5 : ③の原始反射は何か、また消失する時期を答えなさい。(各 2 点、計 4 点)

設問 6 : 光線療法時の看護で正しいものをすべて選びなさい。(3 点)

1. 直接授乳を禁止する。
2. アイマスクを着用する。
3. 光線療法中はオムツの着用はしない。
4. 低体温となるため湯たんぽを準備する。
5. 光線療法は 12 時間行う。
6. 低体温予防のため沐浴は実施しない。
7. 便秘に気を付ける。
8. 哺乳力・筋緊張の低下や神経症状を観察する。

Ⅶ 低用量ピルについて設問に答えなさい。(各 2 点, 計 8 点)

設問 1 : 低用量ピルの副作用を 2 つ答えなさい。

設問 2 : 低用量ピルの副効用を 2 つ答えなさい。